



「広島生変図」 平山郁夫

題材の目標

描かれていることや作者の思いなどを話し合い、見方や感じ方を深める。

「広島生変図」に込めた作者のメッセージを感じ取り、自分の感想をもつ。

- 準備物** 【教師】 鑑賞作品の複写、「おこり地蔵」などの資料、感想を書く紙など
 【児童】 筆記用具など

学習の展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>「広島生変図」を見て、描かれていることから、8月6日の広島を想像する。</p> <p>「おこり地蔵」などの話を聞きながら作品を鑑賞する。</p> <p>「広島生変図」を描いた平山郁夫について説明を聞き、作者の思いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時被爆したこと ・戦後30年余りたってやっと描くことができたこと ・作品に込めた作者の思い <p>作者に宛てて感想を書く。</p> <p>まとめ、意見交流をする。</p>	<p>前もって「戦争」についての意識調査を行い児童の実態を把握しておくことよい。</p> <p>できるだけ大きな画面で作品を提示する。（美術館に展示されている作品の前で鑑賞することがもっとも望ましい。）</p> <p>お話と絵から8月6日の広島を想像させ、感想をもたせる。</p> <p>描かれているものや色、題名などを手がかりに作品に込めた思いを話し合う。</p> <p>被爆体験、原爆の後遺症、原爆の絵を描いたわけなど、手記などを参考にして簡単に説明する。</p> <p>の話し合いを深め、作者の作品に込めたメッセージを考えさせる。</p> <p>作品には、作者の思いが込められ見る人へのメッセージがあり、見る者の関わり方が大切であることを知らせる。</p> <p>友だちの感想を聞き、ものの見方、考え方を広げる。</p>	<p>関心をもって作品を見て、自分なりの感想をもつ。</p> <p>画家の思いや意図、友だちの見方や考え方について分かり合おうとする。</p>

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

この題材は、中・高学年を対象に計画を立てています。校内で計画されている平和学習と関連させて扱うとよいでしょう。中学年では、作品の大きさ、色、描かれているものから鑑賞を深め、高学年では、画面下の原爆ドームなどから作者の心情に迫っていくことができるでしょう。

< 鑑賞の視点 >

被爆体験をなかなか絵に描くことができなかった作者の心情や、炎で燃え尽くされる広島街や空に込められた作者の思いを

描かれているものから感じ取り、話し合いを通して深めましょう。

< 指導の工夫及び配慮 >

この作品は、所蔵作品展で「原爆の日」に合わせ夏の時期によく展示されます。教室での鑑賞もよいですが、美術館で本物の前で鑑賞すると作者の思いが直接伝わってくるような気がします。

のお話の内容は中・高学年それぞれの発達段階に合ったものを設定し、あまり長くないようにしましょう。

< 教具（教材）づくり >

中学年では、の「感想を書く」かわりに画面右上の「不動明王」にふきだしをつけて自分の思いを綴らせてもよいでしょう。

ひろしましょうへんず 「広島生変図」

紙・彩色・屏風 1979（昭和54）年《171.0×364.0cm》

「広島で被爆した私は、平和の祈りは描き続けたが、直接的に原爆図は描かなかった。昭和53年8月6日お参りした私は、記念堂の灯に、被爆の業火が甦った。広島は不死鳥のように生きよと、^{かえん}火焰の中で不動明王が呼び、今も生きてると、広島の被爆を描いた。」（文化勲章受章記念 平山郁夫展）と記されているように、この絵は被爆体験を直視し、もう一度原点に立ち戻って描かれた作品です。

作品からは原爆の悲惨さや戦争の愚かさよりも、「広島は決して滅んだわけではない、生まれ変わって生き続けているんだ、ということ表現したかったんです。」（私の道 瀬戸内の潮騒に育まれて）と述べているように、炎の中の不動明王が怒りと哀しみを乗り越えて「生きよ！」と叫ぶ姿が描かれ、作者の広島再生の願いと平和を希求する心が込められています。

画面右上の不動明王は、古くから庶民に信仰されている神で、右手の剣は悪魔や煩惱をくじき、左手の綱は自由を示すといわれています。

ひらやま いくお 平山 郁夫

「私の持つ原風景は常に故郷の山であり海であり、また島のたたずまいである。私は故郷から多くの影響を受けました」（私の道 瀬戸内の潮騒に育まれて）と語っているように、平山郁夫〔1930（昭和5）年～〕は、1930（昭和5）年、自然豊かな広島県豊田郡瀬戸田町に生まれました。1945（昭和20）年8月6日、中学3年生の時、勤労動員の作業中被爆し、1952（昭和27）年、東京美術学校を卒業、翌年院展に初入選を果たし前田青邨に師事します。仏教伝来と日本文化の源流を探るシルクロードをテーマに、アジア各地を訪れ取材した作品を数多く発表しています。ここ十数年来「世界文化財赤十字構想」を掲げ、世界の文化遺産や文化財の保護、修復に協力する活動を通して文化による国際貢献に尽くし、現在も他方面で活躍しています。